

住田高校魅力化構想

令和4年4月～令和9年3月

住田高校魅力化推進会議

第1章 住田高校魅力化構想策定の背景

第1節 住田町の動向と課題

住田町では、「住田町総合計画」において、「豊かな緑と水に生まれ安らぎとにぎわいが調和する共生のまち住田」という将来像を描き、2040年時点での目標人口を4,000人と定めている。また、「医・食・住」を重点施策テーマとして掲げ、健康町づくり、食産業の推進、住環境改善に取り組んでいくこととしている。

しかしながら、15歳～49歳女性の人口や、出生率、生産年齢人口の減少が、推計よりも低い値で加速する一方で、高齢化率は上昇の見込みである（2030年にはほぼ50%に達する見込み）。住田町は、①20代前半の人口の増加、②15歳～49歳女性の人口の増加を重点的に解消すべき課題として抽出している。

教育環境に目を転じると、町内の児童・生徒数も減少が続くことが予想されている。これは、町内だけでなく近隣市でも同様で、令和2年度に気仙管内の中学校を卒業する生徒が448名であるのに対し、7年後の令和9年度に中学校を卒業する生徒は350名に減少することが予想されている（約22%減）。

住田町と住田高校が連携する教育活動については、「住田町総合計画」と「住田町教育振興基本計画」において、「町内唯一の高等学校である住田高校を存続させるため、本町独自の魅力ある学校環境づくり」、「小中高の各学校が連携した地域創造学をはじめ、本町独自の魅力ある教育活動をさらに推進するとともに、これを広く発信することで、子育て世代に選ばれるまちづくり」の推進が目指されている。

これを実現するため、住田町では平成25年から、給食費の無償提供や通学費の補助、英検受験料の補助など、金銭的な負担軽減のための施策をおこなってきた。また、平成29年には文部科学省から研究開発学校の指定を受け、町内のすべての学校で「地域創造学」に取り組んでいる。さらに平成30年からは、住田高校の教育活動の魅力向上を支援するために教育コーディネーターが配置された。令和3年度現在、3名の教育コーディネーターが活動を行っている。

第2節 地域にとっての高校の存在意義

住田高校は平成27年に学級数が2学級から1学級へ減じて以降、入学者数が30名前後で推移しており、定員割れが常態化している。しかし住田町に住田高校がなくなれば、町内のすべての15歳が中学校卒業とともに住田町を離れなければならない、15歳から18歳の若者の姿を町内で見かけることはほとんどなくなると推察される。遠方へ通学させるため、生徒・保護者の時間的・経済的な負担が増えることが予想され、それによって世帯ごと転出する家庭が増加することも考えられる。

10代という多感な時期のほとんどすべての時間を町外で過ごすことは、10代の目線で地元を多角的に見直す機会や地域への愛着を育む機会の喪失につながり、進学や就職後に「地元に関わりたい」と考えたり、「住田で子育てをしたい」と考えたりする若者が減少するこ

とが予想される。住田高校は、町内の中学生にとって身近な地域での学習機会という選択肢の確保や、ひいては町の持続可能性を高める点から重要な存在であるといえる。

以上を裏付けるものとして、地域から高校が無くなることによる損失は以下のように指摘されている。

高校が統廃合になった場合の損失

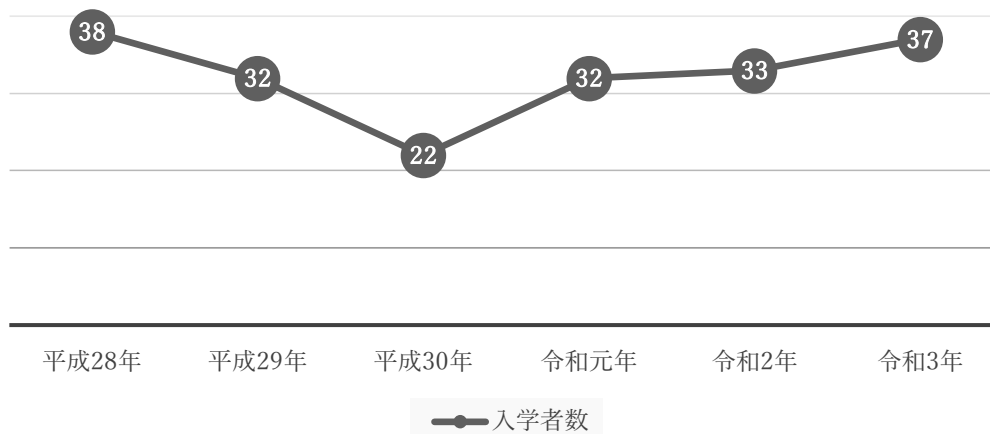
- 高校が廃校となった自治体の人口減少は、近隣自治体よりも減少スピードがはやい。
- 高校生の親となるような働き世代ほど近隣の高校が存置する市町村に転出する。
- 地域へのU I ターンが減少する。
- 義務教育卒業後の学びの保障をおこなうことが困難になる。

※三菱UFJリサーチ&コンサルティング「高校存続・統廃合が市町村に及ぼす影響の一考察～市町村の人口動態からみた高校存続・統廃合のインパクト～」(2019)より

同時に、他市からの住田高校へ進学する生徒が7割を占めていることは、前述のような重要な時期を、10代になって初めて住田町で過ごす若者が存在することを意味する。これは将来的に、住田町に何らかの形で関わりたいと考える人口(関係人口)の間口を広げる機会と捉えられる。近年の住田高校への入学者は、微増傾向を示しており、将来的な関係人口の増加が期待できる。

高校進学を含む若者の流出は、「若者流出→既存産業の衰退→雇用の縮小→地域力の低下→若者流出…」という悪循環を加速させる大きな要因の一つである。青少年教育、地域創造学、保護者の経済的負担、少子化、関係人口、U I ターンの定住、地域の活性化など、住田町が推進する様々な施策において住田高校が地域に影響を与える可能性は大きく、その存在意義は大きい。

*近年の住田高校入学者数の推移



*平成以降の住田高校・住田町の沿革

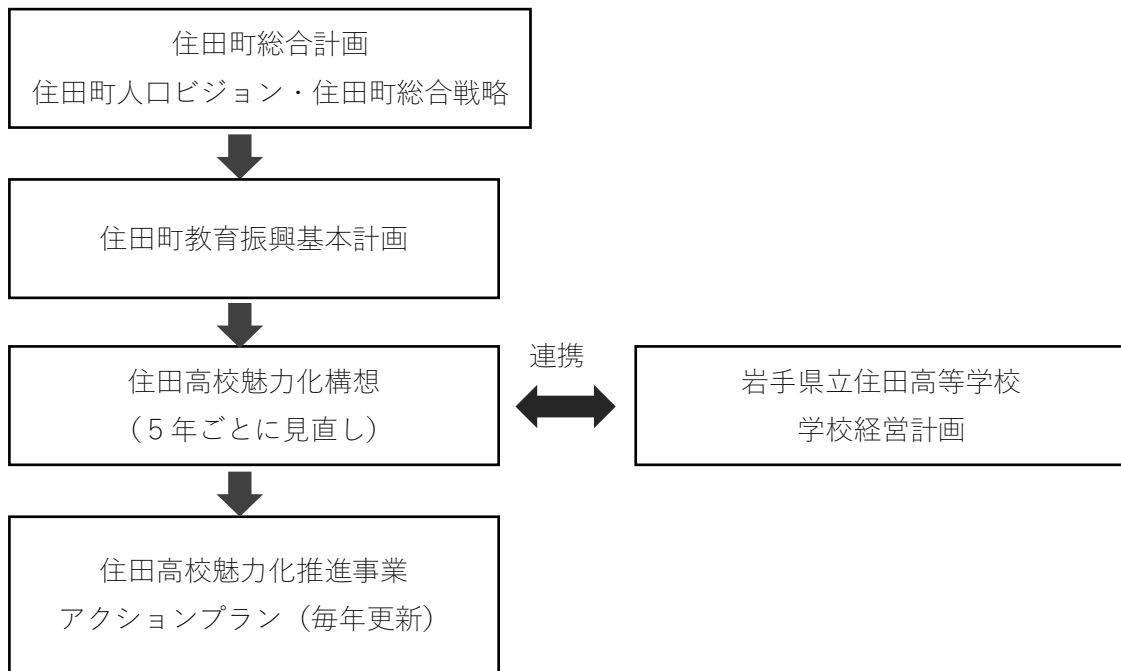
年月	住田高校の動き	住田町の動き	魅力化事業の動き
H3.2	岩手県立住田高等学校 教育振興会の設立		
H8.3	海外派遣事業開始		
H20.4	創立 60 周年		
H25.4	平成 25 年度入学生より、1 学級編成を開始。	給食の無償提供、 通学費の補助を開始	
H27.4	全学年において、1 学級編成となった。		
H29.4		研究開発学校指定 (R.3 まで)	
H30.4	創立 70 周年		「自学自習支援事業」開始。 教育コーディネーター 1 名 配置。
R2.4			「住田高校魅力化推進事業」開始。教育コーディネーター 3 名を配置。 「魅力化推進会議」発足。

第3節 本計画の位置づけ

以上を踏まえ、住田町では住田高校と住田町の連携をより推進するため、その実現にむけて「住田高校魅力化構想」を策定する。

本構想は、住田高校および住田町、そこに関わるその他の関係機関が取り組むべき方針を明らかにし、目指すべき共通の目標の理解や共有、浸透が図られるために策定するものである。なお、本構想の実施期間は令和4年4月～令和9年3月までの5年間とする。他計画との関連は次ページのとおりである。

<他計画との関連>



第2章 現状の環境要因の分析と導出された住田高校の可能性

第1節 住田町と住田高校の現状分析

住田高校魅力化推進会議事務局が実施したヒアリングやアンケート調査の結果をもとに、住田町と住田高校の置かれている現状を「SWOT分析」の枠組みを援用し、分析を行った。

※SWOT分析…「Strength(強み)」、「Weaknesses(弱み)」、「Opportunity(機会)」、「Threat(脅威)」の4つのカテゴリーの視点から、経営戦略や事業計画の現状分析をおこなう経営戦略策定方法。

	プラスの要素	マイナスの要素
内部要因	<p>【Strength 強み】</p> <p><生徒個人に起因する要因></p> <ul style="list-style-type: none"> ・素直で優しい生徒が多い。 ・挑戦したい気持ちを秘めている、伸びしろが多い生徒が多い。 ・高校入学後に自信をつけ、積極的に行動する生徒が多い。 <p><町・高校に起因する要因></p> <ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな学習指導、生徒指導が可能である（1学年を2学級に分け、担任と副担任を配置しているため、1クラスの最大人数は20名）。 ・高校入学後に生徒が「主役」となる機会が多い。 ・海外派遣を実施している。 ・地域創造学や住高ハウス〇〇など、学校や家庭以外の社会との接点を持つ機会が多い。 ・給食の無償提供がある。 ・通学費の補助等、金銭的な負担が少なくて済む。 ・教育委員会がコンパクトで関係者の連携がしやすい。 	<p>【Weaknesses 弱み】</p> <p><生徒個人に起因する要因></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感につながる成功体験の乏しい生徒が多い。 ・進路意識が弱く、自分の進路や生き方について考えを深められない生徒がいる。 ・学習意欲、競争心が低い。 <p><町・高校に起因する要因></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする生徒の増加により、教員が多忙である。 ・住田高校に入りたい部がない。 ・地域や保護者への情報発信が不足している（発信しても届かない）。 ・地域内で住田高校の重要性が浸透していない。
	<p>【Opportunities 機会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊富な地域資源がある。 ・豊富な地域人材がいる（地域住民が、多様な分野で先生になれる）。 	<p>【Threats 脅威】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、高齢化が進んでいる。 ・住田高校の「学力」に対する評価が低い。

外部要因	<ul style="list-style-type: none"> ・住田町の関係人口が広がっている。 ・先進的な地域課題があり、良質な探究の教材となる。 ・地域や校内で、オンライン環境の整備が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の学習環境と学習資源が限定的である。 ・若者や移住者の挑戦を応援する地域の土壌が十分に醸成されていない。
------	---	--

第2節 現状分析から見出す住田高校の可能性

(1) 従来の小規模校のイメージの刷新：多様性の受容と個別最適化した教育の実現

従来、小規模校は価値観の固定化・同質化や人間関係の序列化・固定化が課題とされてきた。同時に小規模校は、人数が少ないからこそ、一人の生徒の個性が際立つ環境でもある。個性が際立つ環境は、同質化されていく環境においては、生徒にとって同調圧力に苦しむ要因ともなってきた。

一方で、住田高校の生徒の「Strength(強み)」として、その多くが「挑戦したい」という気持ちを秘めていることや、入学後の伸びしろの大きさが指摘されている。さらに、住田高校の「Strength(強み)」として、教師が小規模な環境を生かして個別の学習指導や進路指導を積み重ねてきたことが挙げられている。

このような環境において、小規模校であることは強みである。生徒の多様な個性を受容しあう学校のモデルを住田高校から創り出すことは、従来の「小規模校」のイメージを刷新し、住田高校の魅力向上につながる。

さらに、ICT教育の環境整備が進んでいることが追い風となる。新型コロナウイルスの感染拡大によって、オンラインの積極的な活用がこれまで以上に模索される中、住田高校の生徒たちはICTを利用した他校生・外部講師との交流や、一人ひとりの個性を生かした地域創造学に取り組み、成果を上げてきた。教師や支援者の目が届きやすい環境の中で、ICTを活用することで、より効果的な実践となっていたのである。これも小規模な環境だからこそ生み出すことができた成果である。

(2) 高校生による地域活性化の可能性

住田高校で令和元年度より本格的に導入された「地域創造学」では、生徒が自分自身の興味関心に基づき、「唯一の正解がない問い」について考え、解決を目指す取り組みが継続されてきた。生徒は、様々な形で地域住民や地域の事業者へ協力を依頼しており、快く手を差し伸べてくれる地域住民の存在によって、生徒の学びが飛躍的に向上している。同時に、地域住民にとっても高校生のアイデアによって刺激を受ける時間が生まれ、生徒だけでなく相互の学習機会となっている。

このように、生徒が地域の中で実践を重ねることで、生徒の存在が可視化され存在感が高まってきており、高校生が「支援される存在」から、地域課題を発見し、解決に取り組む「地域を支援する存在」として、地域活性化に寄与できる可能性が高い。

また、そこで培われた能力や経験は、高校時代だけでなくその後の社会人生活の中においても、本人や地域社会に好影響を与えることが期待できる。

(3) 住田高校から「挑戦する意思を持つ人材」を生み出す可能性

前述のとおり、住田町は少子高齢化や人口減少といった課題を持つ「課題先進地」であり、その解決にむけて取り組みを重ねてきた地域でもある。生徒にとっては、この課題が生きた教材であり、地域全体が学びの場となる。地域に存在する脅威を、挑戦の機会と捉え直し、生徒の試行錯誤のフィールドとして提供していくことで、将来的に住田町のみならず様々な地域で活躍する人材の育成に寄与できる。

また、高校時代にこのような経験を積むことで、進学後に住田町を研究のフィールドに選んだり、就職先として住田町を選んだりする若者が将来的に生まれる可能性もある。課題先進地を逆手に取り、地域を若者の挑戦のフィールドとして捉え返すことで「挑戦する意思を持つ人材」の還流が期待できる。

第3節 「住田高校魅力化構想」が目指すもの

これまでのアンケート調査や上記の分析をもとに、以下、住田高校の魅力化によって育てたい人物像、そのような人物を育てる学校・地域の姿を示す。

(1) 育てたい人材の姿

育てたい人材

住田型グローバル人材

山あいの小さな町から、視座高く視野広く物事を捉え、身の回りの社会に誠実に働きかける人材。

身に付けたい素養	具体的な姿
自主	自主的、自律的に行動を起こす。
創造	多様な人・モノと出会い、挑戦や失敗をいとわず、新たな価値を創造する。
至誠	他者を思いやり、誠実に向き合える。
共生	気仙地域の豊かな自然や周囲の人々と共に生き、大切にできる。

ヒアリングで集めた意見

- * 高校生とのワークショップより／「10年後どんな自分になっていたか」
- ・人間として自立し、社会に認められる人になっていた。
 - ・仕事を楽しまたい。自分で選んだ仕事だから、楽しみながら仕事をしたい。
 - ・地元で働きながら、元気に過ごし、地域の人と仲良くしていきたい。

* 地域住民ヒアリングより

・子ども達は新型コロナウイルスのような、予測不可能な社会を生き抜いていかなければいけない。言われたことを受け身の姿勢でやるだけでなく、自分の力で考え、困難を克服する人材になってほしい。

- ・個性や多様性を認め合う人材。
- ・前向きにチャレンジできる人材。失敗から学ぶことができる人材。
- ・創造的な人間。枠にとらわれない人材。
- ・住田のことを知りながらグローバルなことを考えられる、外の世界を知る人材。
- ・自分や住田の自然などの資源を大切にできる人材。
- ・「今」を好きになれる人材。

(2) 事業における「高校」の役割

事業における高校の役割

生徒が社会にはばたく準備ができる学校

生徒が、多様性が受容される安心を感じられる環境と、地域と関わる機会を積極的に創り出す学校。学校内外で生徒が学びを得て、社会にでる準備となる機会が得られる学校。

具体的な姿

- ・自己肯定感をやしなう場。
- ・多様性を認め合う場。
- ・安心して活動できる場。
- ・社会を生き抜く学力・知識をたくわえる場。

ヒアリングで集めた意見

* 高校生とのワークショップより / 「住高のよいところは？」

- ・先生が優しい。
 - ・できることがたくさんある。成長できる。
 - ・積極的に挨拶をする生徒が多い。
- * 教員ヒアリングより
- ・集団生活を安心安全にできる場にしたい。
 - ・ソーシャルスキルを身に付け、自己理解ができる様な機会づくりをおこないたい。
 - ・希望進路を確実に実現できるような学力を身に付けさせたい。
 - ・住田高校の生活の中で、自分に対して自信をつけてもらいたい。
 - ・競争心や、少し高い目標に向けて頑張る姿勢をもってほしい。
 - ・制服の在り方、学校の校則など、多様性を認めるような環境づくりをしていきたい。
 - ・現在の教育コーディネーターの取り組みをもっと推進してほしい。

* 地域住民ヒアリングより

- ・「高校に行ってみたい」と地域の人も思えるような学校にしてほしい。情報をもっと発信してほしい。文化祭などで学校に行ってみたい。
- ・もっと多くの人が学校に関わるようになれば、学校がもっと伸びていくのでは。先生も地域に出て、一緒に遊ぶぐらいの気持ちで教育に携わってほしい。

(3) 事業における「地域」の役割

事業における地域の役割

住高生の挑戦・学びのフィールド

住田高校の活動を地域全体が応援し、高校生の成功や失敗を「わが子」のように受け止める地域。また高校生と関わる機会を、地域の学び・自己成長の機会と捉え返すことができる地域。

具体的な姿

- ・町民の誰もが伴走者になる。
- ・若者の挑戦を応援する。
- ・地域や自然と共生する知恵を次世代へつなぐ。
- ・オープンな場である。

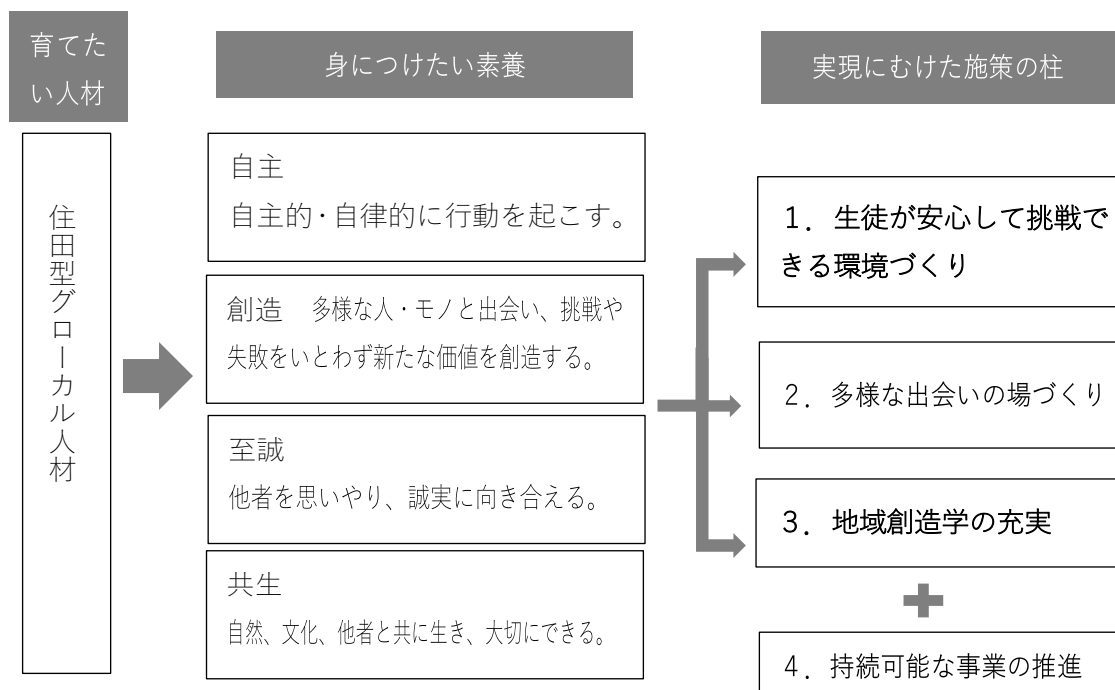
ヒアリングで集めた意見

* 地域住民ヒアリングより

- ・住民が前向きな地域には「創造性」もついてくる。
- ・大人が後ろ向きの姿勢では、若者のやる気が損なわれる。ほめあう風土が大切。
- ・地域側が多様性を受け入れる土壌にならなければいけない。
- ・わら細工ができる人、三味線ができる人、郷土芸能ができる人など、色々な特技を持つ住民が多い。誰もが先生となって高校生と関わり合う地域になってほしい。地域には多様な伴走者がいるので、住民がその意識・自覚を持ってほしい。
- ・子供たちが地域に不満を持たないような努力をしていきたい。
- ・自然と共に生き、自然から学び取る力を共有できる地域になってほしい。

第4節 推進する施策

以上を踏まえ、目標の実現のための具体的な取り組みを4つの柱に分け推進する。



(1) 施策の柱1：生徒が安心して挑戦できる環境づくり

生徒が高校生活の中で安心して挑戦できる（自分の存在を肯定される環境。「自分なら挑戦できる」、「失敗しても大丈夫」と積極的に挑戦に踏み出せる）環境をつくる。

<主な取り組み>

住高ハウス〇〇の運営、住高チャレッジ部の運営、学習サポートの実施など。

(2) 施策の柱2：多様な出会いの場づくり

地域内外の人的・物的な資源とつながり、普段の高校生活では得られない「出会い」をつくりだす。

<主な取り組み>

社会人との対話の場「かたらっせん」、他校生との交流、レクデーなど。

(3) 施策の柱3：地域創造学の充実

生徒や地域の実態に即しながら、教員と教育コーディネーターが連携して、地域創造学の充実を図る。

<主な取り組み>

地域人材の紹介、生徒のプロジェクトのサポート、教員との研修の実施など。

(4) **施策の柱4：持続可能な事業の推進**

本事業や住田高校における教育活動が持続可能なものとなるよう、情報発信や生徒募集の実施、事業推進体制の充実を図る。

<主な取り組み>

教育コーディネーターの配置、SNSによる情報発信、「地域みらい留学」の参画による県外入学生徒の募集など。

第3章 実行体制と施策の検討について

毎年、事務局が「住田高校魅力化推進事業アクションプラン」を作成し、魅力化推進会議で協議し決定する。

【住田高校魅力化推進会議＝意思決定の場】

- ・学校と地域の協働ビジョン、魅力化の基本方針等を協議・承認
- ・岩手県教育委員会との対話

委員

町長、教育長、企画財政課長、農政課長、住田高校校長・副校長、住田高校教育振興会、町内中学校校長、PTA、地元事業者、研究者、その他有識者

【事務局】住田町教育委員会

- ・各調整をおこなう。
- ・魅力化構想の実現に向けた4つの「施策の柱」に関して、具体策の検討・実施を関係者とおこなう。